

周年放牧黒毛和種生産子牛の吸乳期発育に及ぼす要因

片 平 清 美

緒 言

周年放牧で生産される子牛の発育では吸乳期の発育が重要である。入来牧場産子牛の吸乳期については、1996年の技術発表会で、生時体重と吸乳期 DG また季節の影響が大きい、生産年度間では発育が大きくなる傾向であることを明らかにした。

本研究で周年放牧で生産される子牛の吸乳期発育におよぼす要因を再度検討し、入来牧場の周年放牧での管理技術向上の動向を明らかにしようとした。

材料と方法

1995年1月～1997年10月の間に入来牧場で周年放牧によって生産された子牛310頭の吸乳期の DG について、性別での生産年度間、季節の影響を検討した。

結果と考察

周年放牧生産子牛の生育体重は年度間で有意差は認められなかった。吸乳期の DG は年度間で有意差が認められ、雄、雌子牛とも吸乳期の DG および90日体重が低下しており、特に97年度の雌子牛が最も低い値を示した。これは春季から夏季にかけてサツマゲートを使用できなかったのが要因ではないかと思われる（第1表）。周年放牧生産子牛の生産体重は季節間で有意差が認められ雄、雌子牛とも秋季が小さく、春季と夏季が大きくなった。

吸乳期の DG は、雄子牛は秋季が高く、雌子牛は秋季が高く、夏季と春季が低くなる傾向が認められた。しかし、これらには有意な差は認められなかった。（第2表）

以上のことから、子牛の発育におよぼす要因は飼設の事情などに伴う年度や季節の影響があると考えられた。このため、前回の報告と同様に、施設を更に充実させ、生時体重を大きくし、吸入期の発育を向上させるための技術向上が不可欠であることが明らかになった。

第1表 周年放牧生産子牛の生産年度間による生後90日齢までの発育値の違い

子牛の性	生 年	頭 数	生時体重 (kg)	吸乳期 DG (g)	90日齢 体重 (kg)
雄	1995	55	32.9	721.3a	97.8a
	1996	56	32.6	635.7b	89.9b
	1997	38	33.7	661.8b	93.2b
雌	1995	56	29.3	622.5a	85.4
	1996	62	31.6	605.9a	86.0
	1997	38	31.1	559.8b	81.5

(異符号間は5%水準で有意差あり)

第2表 周年放牧生産子牛の生産季節間による生後90日齢までの発育値の違い

子牛の性	季 節	頭 数	生時体重 (kg)	吸乳期 DG (g)	90日齢 体重 (kg)
雄	春	54	34.3a	687.8	96.2
	夏	35	33.7a	653.5	92.6
	秋	24	30.7b	716.7	95.2
	冬	38	32.0a	649.1	90.4
雌	春	47	31.0a	586.0	83.5
	夏	46	32.1a	584.5	84.6
	秋	22	28.7b	638.2	86.1
	冬	44	29.9a	613.3	85.1

(異符号間は5%水準で有意差あり)